

二一五五番

秋萩あきはぎの 咲さきたる野の辺への さ雄をしか鹿かは 散ちらまく惜を
しみ 鳴なき行ゆくものを

二一五六番

あしひきの 山やまの常とかけ陰かげに 鳴なく鹿しかの 声こゑ聞きかすや
も 山田やまだ守もらす児こ

二一五七番

夕影ゆふかげに 来き鳴なくひぐらし こことだくも 日ひごとに
聞きけど 飽あかぬ声こゑかも

二一五八番

秋風あきかぜの 寒さむく吹ふくなへ 我わがやどの 浅茅あさぢが本もとに
こほろぎ鳴なくも